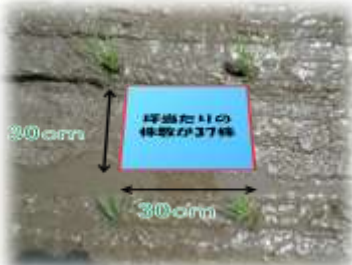


研究結果の報告

山形県立庄内農業高等学校 作物チーム

私たち庄内農業高校作物チームでは、今年度「水稲疎植栽培」の普及拡大を目標に研究に取り組んできました。そこで研究結果のまとめを行いました。農家の方々に今後の経営に生かしていただけたいと思います。



1. 疎植栽培とは

標準よりも「株間・条間」が広く、そのため田植えに使用する苗の枚数が少なく「労働の軽減」「育苗費の軽減」を目的とされ、普及し始めた技術です。

2. 疎植栽培の利点

疎植栽培の利点として、太い茎になり倒伏が少ないこと、分げつが旺盛になること、光が株元まで当たり光合成が促進されること、風通しがよくなり病害虫に強くなることなどがあげられます。また、穂が多くなります。



一株が大きい！茎が太い！



穂が大きい！



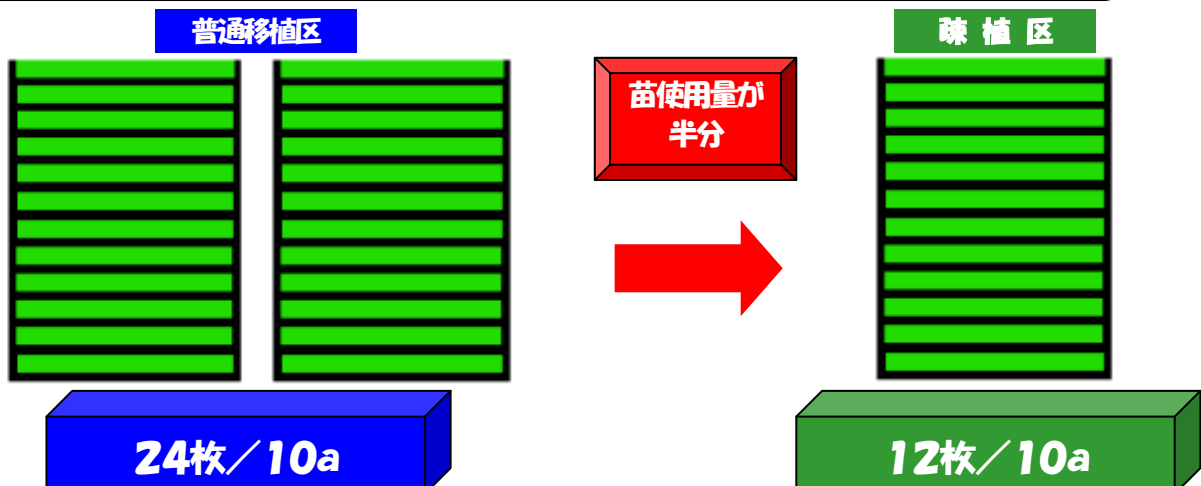
倒伏しない！

3. 結果

田植え時の株数設定を、1坪(3.3㎡)当り疎植区37株、普通移植区60株としました。

(1) 苗箱の比較

10a当り疎植区12枚、普通移植24枚となり使用量が半分となりました。

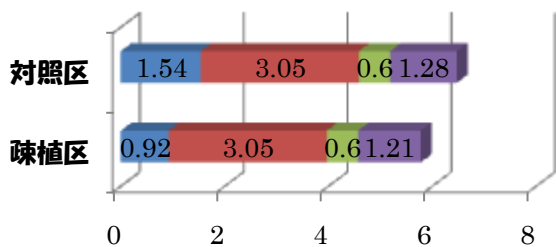


(2) 収量

10a当たりの収量として、普通移植区「**569kg**」、疎植区「**567kg**」となり、疎植でも安定した収量を得ることが可能です。

	m ² 当たり穂数 (本)	平均1穂粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	収量 (kg)/10a
普通移植区	426	70	86	22	569
疎植区	383	73	90	22	567

■ 播種・育苗 ■ 耕起・代かき ■ 施肥 ■ 移植



(3) 作業時間(春作業時)

10a当りの作業時間は、普通移植区「**6.5時間**」、疎植区「**5.8時間**」となり、**0.7時間の短縮**が可能となります。

(4) 品質

品質は両区とも**整粒歩合90%**を超え、疎植でも品質の良い米の生産ができました。

(5) 食味

食味値は普通移植区「**76**」、疎植区「**79**」と疎植の方が高い結果となりました。疎植栽培により倒伏しなかった事がよい結果をもたらしたと考えられます。

(6) 経営収支

10a当りの収支は普通移植区「**29,714円**」、疎植区「**38,230円**」となり、疎植区の方が、**8,516円**収益増となりました。

[収入]

[支出]

	普通移植区	疎植区		普通移植区	疎植区
収量	569kg	567kg	固定費	59,938円	55,602円
単価	260円	260円	うち減価償却費	27,176円	22,840円
粗収入	147,940円	147,420円	変動費	39,651円	35,783円
			労働費	18,637円	17,805円
			費用合計	118,226円	109,190円

普通区 [収入]147,940円-[支出]118,226円=[利益]29,714円

疎植区 [収入]147,420円-[支出]109,190円=[利益]38,230円